

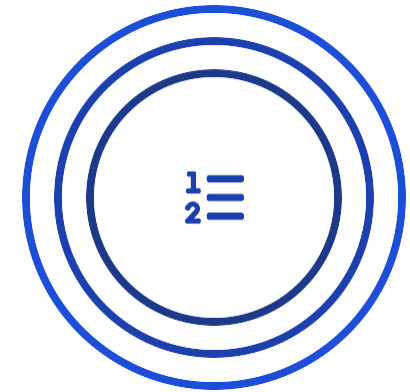
中和的（中和的）功利主義の労働観と解冤相生

本発表は、既存の功利主義の限界を克服する中和的功利主義の労働観と解冤相生の概念を中心に、労働、経済倫理、社会理念の調和と循環を探究する。



目次

- 1 問題提起と研究背景
- 2 中和的功利主義の労働観の概念
- 3 解冤相生の定義と役割
- 4 道德哲学と社会理念の循環的構造
- 5 解冤相生の事例および適用
- 要約および示唆点



問題提起と研究背景



既存の功利主義の限界

多数の効率性のみを強調し、少数者の権益保護が不十分で、社会的不均衡を招来



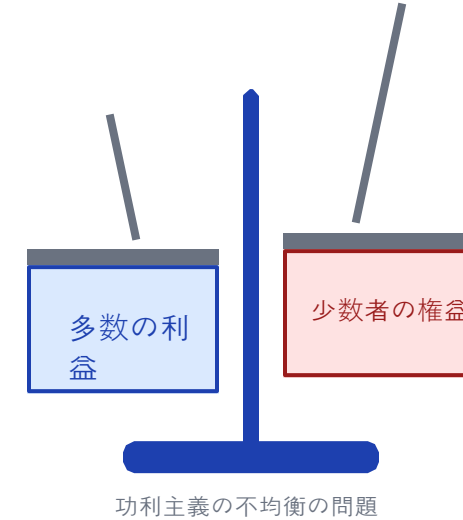
社会葛藤・労働倫理の問題の深化

最大効率追求の過程で弱者が疎外され、共同体価値が弱化し、倫理的問題が発生



新たな労働倫理の必要性

共同体的調和と効率性を共に追求する中和的（中和的）代案の模索が必要



中和的功利主義の労働観



効率性と調和の結合

功利主義の効率性追求の原則と共同体主義的調和を統合し、発展的代案を提示



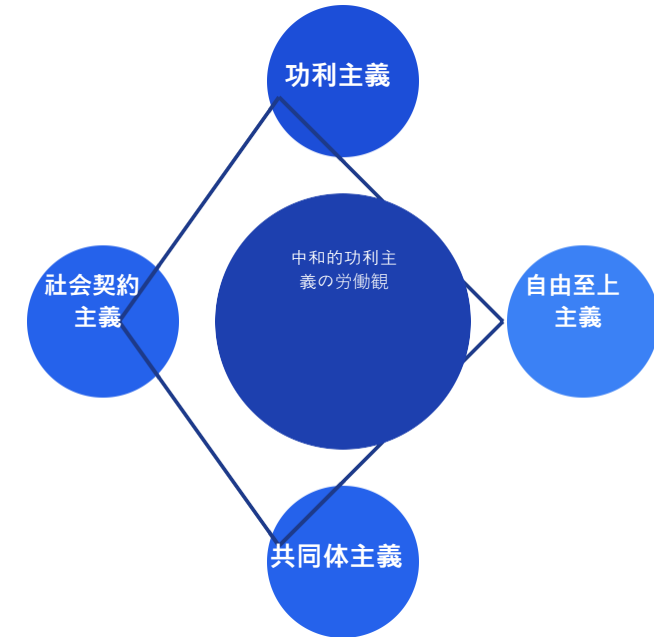
均衡的権益保護

制度内の効率性を維持しつつ、少数者の権益保護を強調する中和的観点を具現



理念の循環的統合

功利主義、共同体主義、自由至上主義、社会契約主義が相互作用する循環的・統合的観点



社会理念間の循環的統合構造

解冤相生の定義と適用



解冤相生の意味

二つ以上の欲求が互いに中和的に作用しつつ相生となる調和の原理



社会問題の解決策

冤、疎外、葛藤などを解消し、少数者と多数の利益を同時に追求する包容的解法



適用事例

労働倫理回復を通じた共同体の復興、弱者・少数者の権利保障、冤（冤）の解消

例：労働倫理違反（賭博罪など）に対する中和的対応、社会的弱者の怨恨の解消



核心的示唆点および結論



中和的労働観の社会的寄与

解冤相生の原理を通じて功利主義の本質を継承しつつ、少数者の權益を保護し、社会的葛藤の解消および道德的価値の回復に寄与する。



社会理念間の調和と統合

功利主義、共同体主義、自由至上主義、社会契約主義など多様な理念間の循環的關係を通じて、社会的調和と均衡を達成する。



健全な共同体および労働倫理の確立

効率性と共同体価値の均衡を通じて、持続可能な社会発展と労働尊重の倫理を具現する。

